コラム

立命館大学客員教授・エコ・テクノロジー研究センター長
TAKEDA Nobuo
武田 信生



プロフィール
京都大学教授、廃棄物学会会長などを歴任
現在、京都大学名誉教授、中央環境審議会臨時委員
NPO法人資源リサイクルシステムセンター理事長

良きもの

景気が悪くなると学生がよく勉強するようになる、と言われてきました。果たして今はどうでしょうか。景気が悪くなりすぎて勉強どころでなくなった、ということはないでしょうか。景気も雇用も、そもそも、どのような社会にわれわれは向かっているのか、よく分からない「漂流」の時期に入ってきてしまったような今日この頃であります。GDPは中国に追い越された、世界的な競争の中で資源を買い負けしている、…などなど、自信や誇りを持ってきたものが次々と壊されていく、そんな世の中になってしまったような気配すら漂うようになってしまいました。

こんな時こそ元気を出さなきゃ、と言って新しいことを思い切ってやってみることもいいのかも知れませんが、じっくり落ち着いて、われわれの本来の姿を振り返ってみることも大事なような気がします。「本来化」です。そもそも何のためにやっているのか、いつの間にか手段だったものが目的になってしまっていないだろうか、などと反省してみることです。

わが国では当たり前のことであるとして、現在まで余り気に掛けてこなかったけれども、守ってきたもの。たとえば、治安。勤勉。時間に忠実であること（パンクチャル）。街が清潔であること、などなど。日本では大都会を一日歩き回っても鼻の中が真っ黒にはならないこと、水道の蛇口から出る水をそのまま飲めること。外国の人にとっては驚くべきことが、当たり前のこととしてあります。

以前に中国の大学教授が、東京のような大きな都市で大気、水、…の環境がこのように維持されていることの秘密を知りたいと言って、あちこちの見学を手配するように頼まれたことがあります。われわれが当たり前と思っていることがとても貴重なことなのです。グローバルな水準に合わせようとして、あるいは他の国を無批判に真似ることによって、これらを失うとしたら、これほど愚かしいことはないでしょう。

少し立ち止まってみて、私たちのまわりにある「良きもの」を守る方法を考えてみてはどうでしょうか。